

2022(令和4)年度
事業計画書
(2022年4月1日～2023年3月31日)

2022年3月18日



公益財団法人

日本ユースリーダー協会

DEVELOPMENT ASSOCIATION FOR YOUTHLEADERS

あすの日本とアジアそして世界のために
力強く活躍する若きリーダーの育成に取り組んで50年
若者たちの豊かな才能を伸ばします



Vision for NEXT50 (2019年制定)

各種の研修・交流プログラムを通し、自主自立、日本の美徳を身につけ
日本、アジア、世界の" Youth Leader"となりうる日本の若者を育成・支援します

Key Word

—— つなぐ ——

2022年度 基本方針・基本計画

<基本方針>

- 活動の理念である『飛び出せ若者』の合言葉を継承する。
 - 海外研修の送り出しと受け入れによって、若い世代の育成と国際交流の架け橋を担っていく。
 - 次世代のユースリーダーを年間を通じて育成するプログラムを重点化する。
- 我々協会とともに「学ぶ者」と「応援する者」との間を、協会が行う各事業の間を、協会と会員を、法人会員や個人会員同士の間を、東京と地方の間を、そして日本とASEAN各国の間を『つなぐ』ことで、明日の若きリーダーすなわち『ユースリーダー』を育成・支援する活動をビルドアップしていく。

<基本計画>

1. 「リーダー育成」「国際交流」「社会啓発」「つなぐ」の4つの事業を柱とする。
2. 次世代のユースリーダーを年間を通じて育成するLEP(Leaders Education Program)を推進する。
3. ASEANとの交流ネットワーク(AJAFSA-21)の活性化を図る。
4. 各事業間、会員間、東京と地方、日本とASEANのつながりを深めていくことを通じてユースリーダーの育成につなげていく。
5. 新型コロナウイルス感染症の拡大状況に対応して、オンラインを積極的に活用し、GETやさくらサイエンスプログラムなど現地訪問型の事業は下期に実施を計画する。

◆合言葉は-----

飛び出せ若者!!

◆キーワードは-----

つ・な・ぐ

2022年度 事業計画方針

★2022年の目標

1. 海外研修:日本とアジアの学生研修を実施していく。
想定参加人数:下期実施予定分「GET(Global Education Training)20名」「さくらサイエンスプログラム:15名」
2. LEP(年間リーダー育成プログラム)への登録を増やす。
3. 事業収支:ゼロを目指す。

★事業計画:事業はすべて公益事業とし、4つの分野で遂行する。

1. リーダー育成事業
 - 1.1. GET(学生向け東南アジア研修)
 - 1.2. LEP(年間リーダー育成プログラム)
2. 国際交流事業
 - 2.1. AJAFA-21との交流促進
 - 2.2. さくらサイエンスプログラム(海外研修生の受け入れ)
3. 社会啓発事業
 - 3.1. 若者力大賞
 - 3.2. 講演会(異業種交流研修会、受賞者講演会、アジアの会)
 - 3.3. 広報活動(広報誌、ホームページ、SNS)
4. つなぐ事業
 - 4.1. 財務管理・強化
 - 4.2. 法人・個人会員との関係強化
 - 4.3. リスク対応体制整備

2022年度 事業計画施策

1. リーダー育成事業

事業収支予算：▲1,980千円(2021年度見込：▲814千円)

1. 1. 「GET(Global Education Training: 学生向け東南アジア研修)」
事業収支予算：▲1,000千円(2021年度見込：▲155千円)

- ◆日本の高校生・大学生を対象にした8日間の海外体験型研修事業
- ◆AJAFA-21(日本とASEANを結ぶ友好団体)の協力を得ている。

- ◆研修実施時期：春(2023年3月)コース(20名)
- ◆研修先：今後検討していく。
- ◆募集計画：学校(先生)ルート／SNS活用／育てる会や商工会議所ルート／会員企業社員子弟へのアプローチ
- ◆参加費：協会が一定額を助成する。
- ◆プログラムの改善：過去の参加者のフィードバックを参照する。
- ◆安全管理対策：現地スタッフ体制、危機発生時対応(OSSMA)等
- ◆新型コロナ感染症が収束した段階で、「GET同窓会」を企画する。

重点施策

1. 2. 「LEP(Leaders Education Program: 年間リーダー育成プログラム)」
事業収支予算：▲980千円(2021年度見込：▲659千円)

- ◆未来の「ユースリーダー」を育成するために、年間を通して様々な研修やイベントに参加し、またそれらの企画に関わることによって、若い世代が学び、気づき、成長をする機会を作るプログラム
- ◆協力校の先生方に働きかけて登録者数上下期合計30名を目指す。
- ◆研修やイベントの例：
 - ・若者力大賞
 - ・受賞者講演会
 - ・異業種交流研修会
 - ・GET
 - ・さくらサイエンスプログラム
 - ・AJAFA-21の行事(TVC、RLF、ECM)
 - ・在日留学生や研修生との交流
 - ・国内/海外のJICAオフィスとの懇談
 - ・その他様々な人々との懇談("Meet the People")
- ◆費用の一部を協会が助成する。
- ◆インターン制度を前年度の実績を踏まえて実施。
- ◆開始時に「登録」してもらい、終了時に「修了証」を発行する。

2. 国際交流事業

事業収支予算：▲330千円(2021年度見込：13千円)

2. 1. 「AJAFA-21との交流促進」

事業収支予算：▲500千円(2021年度見込：0千円)

- ◆AJAFA-21(ASEAN-Japan Friendship Association for the 21st Century)とは「21世紀のための友情計画」(1984から2013年まで実施)による青年研修で東南アジアから来日した研修生の同窓会ネットワーク
- ◆2021年度は2020年度に引き続きオンラインを活用してTVC(テレビ会議)やECM(執行委員会会議)等の活動を行ってきた。
- ◆活発な交流が行われていることを基盤として、交流を活用して具体的な活動(例えばSDGsの目標に沿ったような)の具体案を作る事を検討する。
- ◆交流活動の成果の若い世代への共有が求められており、ECMのオブザーバーとしての参加、またRLF(各国の若者交流プログラム)への若者の参加を促進する。
- ◆AJAFA-21加盟各国との個別の交流機会を増やしていく。

2. 2. 「さくらサイエンスプログラム(海外研修生の受け入れ事業)」

事業収支予算：170千円(2021年度見込：13千円)

- ◆アジア各国からの来日研修・国際交流
- ◆科学技術振興機構(JST)の助成金申請を前提に研修計画を組む。
- ◆助成金申請時期及び研修実施時期：
 - ①5月申請分(2022年度第2回)⇒ 10～11月実施(ベトナム)
 - ②2022年度第3回について、申請を検討する。
- ◆研修プログラム(1週間程度)
 - ①体験型研修の協力機関拡大：日鉄エンジニアリング、リバネス等
 - ②同世代交流を重点化(協力校やLEP参加者との交流)

3. 社会啓発事業

事業収支予算：▲2,600千円(2021年度見込：▲1,802千円)

重点施策

3. 1. 「若者力大賞」

事業収支予算：▲1,700千円(2021年度見込：▲890千円)

- ◆「第13回若者力大賞表彰式」…2022年7月実施予定
 - ①表彰式及びライブ配信の費用の削減を図る。
 - ②メディアの取材を増やし、社会的インパクトを大きくする。
- ◆「第14回若者力大賞表彰式」…2023年2月実施予定
 - ①選考～審査プロセスの継続的改善。
 - ②外部財団等による資金的支援を目指す。

- ◆受賞者支援スキームの検討を継続する。
- ◆受賞者同士の繋がりと協力を促進する。
 - ・「受賞者／協会関係者同窓会」の実施検討

3. 2. 「講演会」

事業収支予算：▲400千円(2021年度見込:0千円)

- ◆新型コロナウイルス感染症の状況を考慮しつつ、上期下期に各区分1回の開催を旨とする。

| 区 分 | | 異業種交流研修会 | 受賞者講演会 | アジアの会 |
|--------|------|--|-------------------------------|-------------------|
| 目 的 | | 各界を代表する講師を迎えて企業の幹部、中堅、若手そして学生に啓発の場を提供する。 | 若者力大賞受賞者の活動を広く社会に伝える。若者を啓発する。 | アジア圏の歴史、文化、現在を学ぶ。 |
| 講 師 | | 法人トップなど | 過去受賞者 | 専門家 |
| 対 象 | 法人会員 | ◎ | ○ | 関西地区在住サポーターなど |
| | 学 生 | ○ | ◎ | |
| 事業収支予算 | | ▲200千円 | ▲200千円 | 0千円 |

3. 3. 「広報活動」

事業収支予算：▲500千円(2021年度見込：▲912千円)

- ◆広報誌「YOUTH LEADER」の発行
 - ・例年、年2回(5月、11月)発行。上半期及び下半期の活動内容を報告。
 - ・2022年度は、11月のみ発行(評議員対談企画及び受賞者スピーチ)
 - ・2021年度の活動報告書を別途5月頃会員に送る。
- ◆ホームページ／SNSの活用
 - ・協会の情報公開。広報誌と連動して活動内容を随時発信。若者力大賞候補者の募集や表彰式の申し込みなどに活用する。
 - ・公式YouTubeチャンネルの整備(再生リストの整理、多言語化など)を行う。
 - ・受賞者のメディア記事等のインデックスをホームページ上で作る。
 - ・ホームページの英語化を視野に入れていく。
- ◆協会案内リーフレットの改訂
 - ・異動の内容を反映。

4. つなぐ事業

事業収支予算：▲500千円(2021年度見込：▲386千円)

4. 1. 財務管理・強化

- ・法人・個人会員の増強
- ・一般寄付金
- ・助成金、クラウドファンディング等その他資金の検討
- ・事務所賃貸借についての幅広い検討

4. 2. 法人・個人会員との関係強化

- ・法人会員懇談会の実施
- ・法人会員のホームページとの連携の検討
- ・法人会員とASEANの友好団体とをつなぐ機会を探る。

4. 3. リスク対応体制整備

- ・防災体制の整備(防災訓練の実施、防災グッズの整備)
- ・海外研修における安全・危機管理体制の整備
- ・内部管理体制の理事会への提案
- ・規定の見直し

2022年度 事業委員会

| 委員会名 委員長 | 活動分野 | 担当理事 | 事務局 |
|---------------------------------------|--|---|--------------|
| <u>リーダー育成委員会</u> 長理事 | ①LEP ②GET | 隈丸理事長 小室副理事長 佐藤常務理事 村岡理事 | 安部 |
| <u>国際交流委員会</u> 阪本理事 | ①AJAFA-21との交流 ②さくらサイエンスプログラム | | |
| <u>社会啓発委員会</u> 池本理事 熊澤理事大賞実行委員長 | ①若者力大賞 ②講演会 ③広報活動 | 隈丸理事長 小室副理事長 佐藤常務理事 倉田理事 家本理事 藤村理事 秀島理事 | 長 林 安部 |
| <u>つなぐ委員会</u> 佐藤常務理事 | ①財務管理・強化 ②法人・個人会員との関係強化③ リスク対応体制整備 | 隈丸理事長 小室副理事長 小笠原理事 | 長 林 |

